ネイチャークラブ会報

SINCE 1996

JREU

第　204　号

発　行　日：2025年7月2日

発行責任者：　西垣　栄義

盛岡地本ネイチャークラブ

「2025山菜まつり」開催されました！

５月 17 日、盛岡地本こぶし会館において、毎年恒例の地本ネイチャークラブ主催「2025山菜まつり」が組合員、OB をはじめ、千葉・横浜・秋田の仲間も参加して頂き開催されました。

昨年末からの冬は暖冬と言われながらも仕事面を含め、雪害の多い年だったと思います。今年も昨年同様に ５ 月の中頃が山菜の収穫も見込めるのではと計画を立て、まつりに向けた山菜収穫のために 15 日、16 日と山に入りましたが、なかなかお目当ての山菜を見つけることが出来ず、特にワラビやタケノコ（ネマガリダケ）はまだ一週間ほど早いかななあと言うのが現実でしたが、このまつりに集う仲間の笑顔を思い浮かべながら、早朝から山に入り、今年は熊に威嚇されることなく、食材をなんとか確保してきました。

皆さんは「春の皿には苦味を盛れ」という言葉をご存じでしょうか。春に苦いものを食べるのが良いという古くからの言い伝えで、「食養生（しょくようじょう）」の考えに基づいて、旬の食材を食べることを大切にする古くからの風習のようです。

（次のページにつづく）

ここ数年、気象や山菜といった季節の旬ものも収穫時期がずれたりしています。地球温暖化が原因のひとつと言えます。社会情勢に目を向ければ、アメリカのトランプ大統領のアメリカ主義への施策転換。終息が見えないロシアによるウクライナ侵攻やイスラエルのガザ地区への侵攻など、各地での戦争や環境問題などが大きく影響しているのではと思います。 お亡くなりになられた角岸顧問がよく「真実(本物)を見る眼を常にやしなっていくことが大事」と言われておられました。私たちは常にこの言葉を忘れることなく、今、目の前にある問題に対して、世論に流されることなく真実を見極めていくことが大事ではないでしょうか。

今回も山菜まつりの開催にむけて、多くの仲間、OB の皆さんが当日参加できなくても、休みを取り、早朝から山に入り収穫作業をして頂きました。ありがとうございました。また、各行事が重なり、参加できなかったと言う声を多く頂いています。今後も皆さんの声を基に更に仲間が集える場を創れるようにしていきます。多くの仲間の皆さんに感謝いたします。

盛岡地本ネイチャークラブ部長　佐々木　勝美

☆参加者からの声☆

山菜、筍。自然の恵みを味わえて楽しかったです。自然を通じてわいわい仲良く出来て、ネイチャーは最高です！